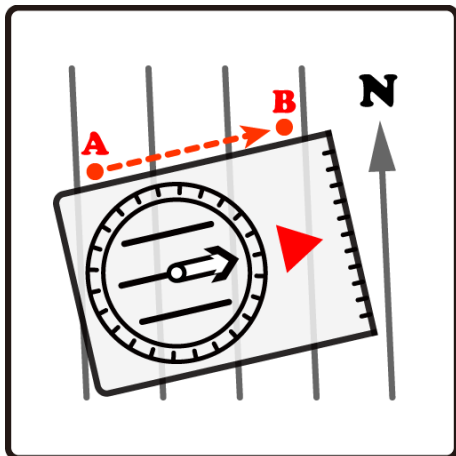
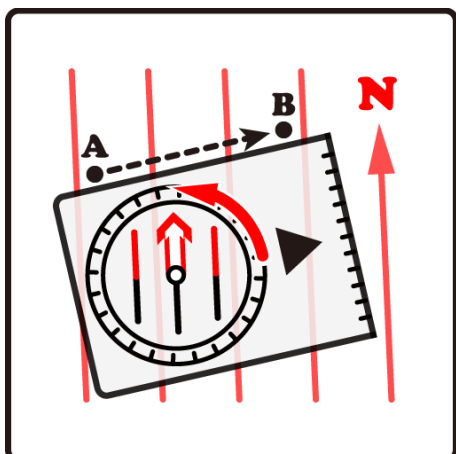


地図&コンパス - 現在地から目標セット



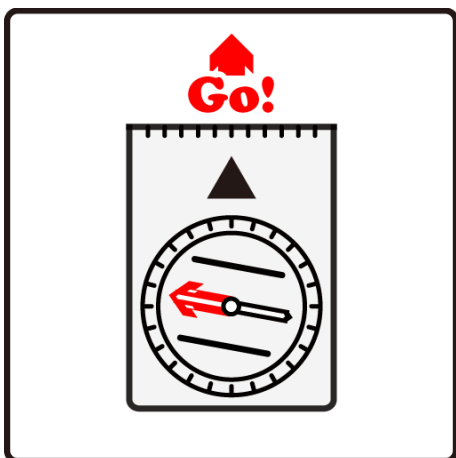
現在地と目標にコンパスの縁を合わせる

- 地図に、現在地 A と目標 B を書き入れます。
- コンパスを地図上に置き、A と B の 2 点をコンパスの縁に合わせます。コンパスの向きは、A がランヤードホール、B がトラベルライン。
- 目標設定は、現在地からコンパスの長さの範囲に収まる距離が良いでしょう。



磁北線と導線を平行にする

- コンパスは、地図上で現在地と目標にコンパスの縁を合わせたまま...
- コンパスのダイヤルをグルッと回し...
- 地図の北が上とすれば、導矢の N も上を向けて、磁北線とコンパスの導線を平行にします。



導矢と磁針の N 極を合わせ Go!

- コンパスを地図から離して、体の前で持ちます。
- 体の向きを変え、導矢と磁針の N 極を合わせます。
- トラベルラインの示す方向、つまり体が向いている方向が進行方向です。

目標に進むコツ

コンパスは、一度、目標をセットすると目標を指し続けます。自分が右にそれるとトラベルラインがだんだん左に傾きますし、反対に進もうとすると逆を示します。当たり前といえば当たり前ですが、初めての方は『コンパスって結構すごい…』と思うところだと思います。

しかし、歩行中にダイヤルが動いてしまうとトラベルラインは狂います。また、現在地ロスト時にリカバリーが大きくなるので、初めのうちは目標を 500m 程度、長くて 1km (1/25000 地図で 2~4cm) 以内に刻んだ方が良いでしょう。視界不良が予測される場所ではもっと短く。

コンパスが右を示しているのに登山道が真っ直ぐな場合、『いずれ右へ曲がるはず…』ということのを頭に置いておかなければなりません。

地図に右へ変わる登山道があれば安心して進めばいいですが、見つからない場合、目標の設定をミスしている可能性もあります。慎重に…そして振り返りながら、戻る羽目になったときの景色を覚えましょう。進めど、一向に右へ進路が変わらない場合、現在地をロストしています。

現在地が解るところか、現在地確認した場所まで戻り、目標のセットをやり直します。

ところで、正確にはトラベルラインは目標を示すわけではなく、現在地と目標の延長線上を示します。

どういうことかというと、実際は岩があれば避けますし、谷があれば迂回し直線上を進むのはほぼ不可能です。現在地から目標の直線上から右に 200m ズレると、目標の 200m 右を示します。

つまり、直線上からズレると目的地には到着しません。

ではどうしたら直線を見失わないでしょう？

まず、目的地が 150 度方向にあるとしたら、150 度方向のなるべく遠く、かつ特徴のある木や目印などを決めます。たとえば『茂った大きな木』と決めたらその木を目指します。

あとはコンパスを見ません。

そして、『茂った大きな木』に到着したら、また、コンパスで 150 度方向の目印を決めます。これを繰り返すことで、直線を見失うことはありません。

ソロハイクも楽しいですが、やはり 2 名以上いたほうが凡ミスは起こりにくくなります。

現在位置の特定方法は、クロスベアリング (2 点交差法) という手法を用います。また別の回にしましょう。

